

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 144 2013. 3. 28

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル4F 岐阜女子大学 文化情報研究センター内
日本教育情報学会 運営本部事務局 Tel: 058-267-5233 Fax: 058-267-5238
E-mail: nkjg@gijodai.ac.jp URL: http://jsei.jp/

日本教育情報学会 第29回年会

開催日: 平成25年11月9日(土)・10日(日)

会場: 沖縄女子短期大学

年会テーマ: 地域文化を教育に

第29回年会は、11月に沖縄女子短期大学を会場として開催することとなりました。年会の概要と研究発表の応募要項をお知らせいたします。ご熟読の上、期限内に手続きを行なってくださいますようお願い申し上げます。

皆様のご参加とご発表を心よりお待ちしております。

第29回年会実行委員長 米盛 徳市(琉球大学)

期 日: 平成25年11月9日(土)・10日(日)

会 場: 沖縄女子短期大学

<所在地> 〒902-0077 沖縄県那覇市長田二丁目2番21号

<URL> <http://www.owjc.ac.jp>

事務局: 日本教育情報学会 第29回年会実行委員会

<所在地> 〒902-0075 沖縄県那覇市国場405 沖縄女子短期大学 記念館1階

<TEL> 098(835)4681 <FAX> 098(835)4682

<E-mail> nenkai29@gijodai-okinawa.jp

年会ホームページ: <http://www.gijodai-okinawa.jp/nenkai29/>

共 催: 琉球大学、沖縄女子短期大学、岐阜女子大学沖縄サテライト校

後 援: (申請中) 沖縄県教育委員会、日本デジタル・アーキビスト資格認定機構
デジタルアーカイブ研究会、沖縄カリキュラム開発研究会
沖縄マルチメディア教育研究会、沖縄ITマスターズクラブ

基調講演「伝統文化をいかに伝承していくか」

講演者：佐々木 正峰

(元・文化庁長官/元・文部省高等教育局長/元・国立科学博物館長)

会場：沖縄女子短期大学記念館ホール〈11月9日 14時～15時〉

地域には、それぞれ昔からの脈々たる伝統文化が受け継がれてきている。この新しい変革が進む社会で、伝統や文化をどのように次の世代へ伝承していくか、教育を通じた継承とそこからの新しい文化の創造が、今、問われている。

文化をいかに伝承し、さらに発展させるか、考えてみたい。

シンポジウム「地域文化を教育に」

コーディネーター：米盛 徳市（琉球大学 教授）

シンポジスト：井上 透（元・国立科学博物館 参与）

大城 學（琉球大学 教授）

安里 繁信（沖縄観光コンベンションビューロー 会長）

赤嶺 美智子（南城市立百名小学校 教諭）

上江洲 安吉（元・勝連町教育委員会 教育長）

地域資料の教育は、昔から伝えられてきた地域の文化財や文化活動、自然や人々の営みなどを通して地域を理解し、さらに、その中から新しい地域文化を創造し、生活産業、観光等を発展させ、新しい社会の構成に役立つものにしていきたい。

このため、学校教育における地域の文化財や文化活動の活用、地域の施設の活用は、博物館や図書館のみならず、観光等の情報提供を通して、他地域の学校と連携し、文化の継承と新しい文化の創造に向けた活動をいかに進めるかが課題である。この解決方法を検討したい。

日程（時間は予定）

1日目 11月9日(土)		2日目 11月10日(日)	
9:30 ~	受付開始	9:00 ~	受付開始
10:00 ~ 12:00	課題研究発表 一般研究発表	9:30 ~ 12:00	課題研究発表 一般研究発表
12:00 ~ 13:00	昼食・休憩 理事会・評議員会	12:00 ~ 13:00	昼食・休憩
13:15 ~ 13:45	総会・学会賞表彰式	13:00 ~ 16:00	課題研究発表 一般研究発表
14:00 ~ 15:00	基調講演	\	\
15:15 ~ 17:15	シンポジウム		
17:30 ~	交流会		

【1】課題研究

① 伝統文化と教育

それぞれの地域には歴史・文化があり、その中で多様な伝統文化が、日々の生活・芸能・文化活動などにより継承されており、新教育基本法（平成 18 年改正）で伝統文化の重要性が言及され、多くの学校でその実践が進められている。そこで、伝統文化についての体験・交流活動（実物・現物）やテキスト（印刷メディア）のほか、多様なデジタルメディアでの教材開発などといった教育実践についての報告をもとに、今後の伝統文化の教材開発・教育実践の方向性について検討する。

② 地域教材と学習利用

高度情報化や国際化の進展により、学校教育においても ICT の効果的な活用やデジタル教材の普及が進んでいる。教師が教材開発する際には、ネット上にも画像データや動画データが溢れているが、著作権等で教育利用する際に利用が制限されることが多い。しかし、地域教材の開発あるいは活用する際には、さらに情報量は限られており、デジタルアーカイブ等のデータベースを構築する必要がある。また教科指導においては、学習指導ではデジタルメディアのみに頼るのではなく、従来から活用されている印刷メディア、さらに体験や活動などの現実の活動も加味されなければならない。そこで、地域素材の教材開発、デジタルアーカイブの教育利用等の報告から、今後の地域教材を用いた教育実践の方向性を見出したい。

③ 保育・幼・小教育の実践と研究

新学習指導要領では、情報の活用、情報モラルなどの情報教育の充実、さらに、幼小連携の推進、幼稚園と家庭の連続性の配慮、預かり保育や子育て支援の推進（幼稚園）が重点課題として示されている。近年の急速に進展していく高度情報通信ネットワークに伴い、学校現場でのインターネット活用、ICT 機器、電子教材、電子黒板等の効果的な活用が重視され、デジタル化された独自の教材開発も含め充実した内容が必要となっている。同時に、効果的な活用方法や指導法等、教員自身のスキルを高めることも重要となっている。一方、教育の情報化に関する手引では、校務の情報化の重要性、校務分掌や成績処理等の各種資料のデジタル化等も大きな課題である。これらの課題を解決するには、全国の教員・研究者が各々の実践を共有し、広めていくことが重要である。今後の、保育と幼・小教育のデジタル化にかかる実践の知恵と工夫を共有し、共に研鑽するための活発な議論の場としたい。

④ 中学・高校教育の実践と研究

中学校・高等学校では、情報化の進展に伴ってさまざまな教育手法が生み出され、デジタル化された教材、ネットワークに乗せての配信、グループウェア、SNS 利用、インターネット TV 会議を利用した交流学习等の多面的な教育活動が繰り広げられている。これらの個性的な実践を互いに紹介し、検証し合う場としたい。また、組織的に取り組まれている我が国の中等教育での情報教育を、世界的な情報教育の進展を参考にしながら、実践を基に、あるべき姿を探っていきたいと考えている。

⑤ 高等教育の実践と研究（教育システム、IR、eラーニング、教員研修等含む）

大学教育の在り方が諮問され、高等教育をめぐる様々な改革が提示され、それにもとづく実践が行われてきている。これらをどのような方法で評価し改善へ結び付けていくかなど、高等教育をめぐる課題は尽きない。本課題研究では、大学における教育内容・方法の改善と評価、FDの組織化とFDの効果検証、FDプログラムの開発と効果検証、eラーニングによる遠隔教育、カリキュラム・デザインとカリキュラム評価、大学教員の職能開発と評価、教員評価などに関して研究、大学におけるキャリア教育の実践と評価などの実践報告を集約するとともに、今日の大学に求められる改革・改善の方向性とその状況について情報交換したい。

⑥ 特別支援教育の実践と研究

特別支援教育は、特別支援学校や学級、通級だけでなく通常の学級も含めて、障害のある幼児児童生徒の一人一人のニーズを踏まえた適切な指導と必要な支援を行うこととして進められてきた。この間、教科書バリアフリー関連三法案の制定、また、特別な教育的ニーズのある子どもへの情報教育の充実、コンピュータ等の教材・教具の活用等、特別支援教育、インターネットTV会議を利用した双方向支援学習におけるICT化が進められている。こうした動向を踏まえ、特別支援教育における教育情報のデジタル化について情報交換したい。

⑦ デジタルアーカイブの研究と実践〈共催：デジタルアーカイブ研究会〉

(A) デジタルアーカイブのシステムの研究

デジタルアーカイブの研究が進められ、資料の収集、撮影の方法、収集されたデータの一時保存、データの選別の方法、著作権・プライバシー等の権利の課題、長期・短期保管の方法と管理システムの構成、メタデータ、シソーラス、利用システムの研究などが各分野で多くの課題があげられている。そこで、デジタルアーカイブの構成、開発にあたっての現状での課題や進め方についての報告から、今後の方向性を見出したい。

(B) デジタルアーカイブの実践と課題

教育・観光・図書館・博物館・企業等の各分野において、デジタルアーカイブの新しい開発・利用が進みだした。学校教育での教科書のデジタル化と保管や学習活動のデジタル保存、また、観光・図書館・博物館での保管資料のデジタル保存と新しい展示利用、さらに、地域資料や活動のデジタルアーカイブ収集や保管など、国内外への流通、提供による地方の活性化への適用について、その実践と課題等の報告から、今後の方向性を見出したい。

(C) デジタル機器等の新しい提示記録活用法とその評価

新しいデジタルメディアとしての電子黒板、電子書籍、携帯端末などの活用について、学校教育・家庭・博物館・図書館、さらに、修学旅行などの観光等の場面において、デジタルコンテンツ(アーカイブ)や他のメディアと組み合わせなど、人々の教育・生活の中のいろいろな分野での利用方法とその評価・改善について、実践研究の報告をする。

【2】一般研究

- ・発表内容は「教育情報に関する研究」であれば、特に内容は問いません。「教育情報」とは、「教育に関する情報」と「情報に関する教育」の内容となります。
- ・想定される発表セッションのキーワードは次の通りです。
- ・応募状況に応じてセッションを設定する予定です。

キーワード

高等教育，初等中等教育，児童教育，幼児教育，専門教育，技術教育，地域文化，観光，教育情報管理，文献資料，教材，電子教科書，デジタル・コンテンツ，教材開発，メタデータ，情報カテゴリー，シソーラス，デジタル・アーカイブ，知的財産権，プライバシー，セキュリティ，個人情報，カリキュラム，教材研究，教材開発，学習評価，授業分析，授業評価，教育システム，共同学習（遠隔協働学習），交流学习，高大連携，保幼小中高連携，生涯学習，教師教育，教員研修，情報教育，教科教育，情報処理教育，情報教育，eラーニング，教育情報システム，学習ソフトウェア開発，学習情報管理システム，SNS，携帯端末，校務処理，校内LAN，GPS情報，災害情報，データベース，情報検索，インターネット，遠隔教育，遠隔教育システム，ネットワーク，プレゼンテーション，電子黒板，マルチメディア，スレートデバイス，タブレット，デジタルメディア，国際貢献・協力，国際理解，特別支援教育，情報モラル，メディアリテラシー，アクティブ・ラーニング，学習環境，ネットワーク環境，FD・SD，IR，学修ポートフォリオ，ティーチングポートフォリオ，接続教育，ラーニング・コモンズ，キャリア教育

【3】研究発表申込締切日・申し込み方法等

① 申込締切 2013年6月28日(金)

② 申込方法

- ・研究発表の申し込みは、メールで下記の宛先へお申し込みください。
研究発表申込書送付アドレス nenkai29@gijodai-okinawa.jp
- ・申込書は、第29回年会ホームページ（<http://www.gijodai-okinawa.jp/nenkai29/>）にある年会研究発表申込書（課題研究は「課題研究発表申込書」、一般研究は「一般研究発表申込書」）を、ダウンロードし、必要事項をご記入の上、添付ファイルで送信してください。
- ・その他ご不明な点は、実行委員会事務局にお問い合わせください。

日本教育情報学会 第29回年会実行委員会事務局
TEL 098(835)4681 E-mail: nenkai29@gijodai-okinawa.jp

③ 発表申込書の書き方について

- ・講演者とは、研究発表会場で口頭発表する会員です。
- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく詳細に書いてください。
- ・キーワードとして前記一般研究発表のキーワードの中から2～5語以内を選んでください。
- ・会場で使用できる機器は、プロジェクトです。パソコンは各自で持参してください。また、あらかじめ持参する機器等がある場合は、申し込み時の大会事務局への連絡欄にその旨を記入してください。
- ・執筆要項などの送付先（メールアドレス等）は、発表者への連絡時期である7月を想定して、自宅または勤務先を記入してください。

④ 課題研究に関する注意事項

- ・ 課題研究は前記「課題研究テーマ」から選びそのテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
- ・ 課題研究発表は年会実行委員会で調整し、テーマごとに担当コーディネーターが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。なお、課題研究として発表できない場合には、一般研究を別に申し込んでいても課題研究分を一般研究発表として発表していただくこともあります。
- ・ 第1発表者(講演者)として課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。

⑤ 一般研究に関する注意事項

- ・ 第1発表者(講演者)としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・ 一般研究発表の発表者は、発表当日の時点で会員である必要があります。非会員の方は、当日までに学会入会の手続きをしてください。
※学会入会の申込は、学会運営本部事務局 (nkjg@gijodai.ac.jp) にお申し込みください。

【4】発表者への連絡

- ・ 発表者には、7月31日までに発表の可否をメールで連絡します。
- ・ 発表を可とされた申込者に対しては、論文の執筆要項をお送りします。
- ・ 論文の原稿枚数は、一般研究は2枚、課題研究は4枚とします。原稿は「年会論文集」の版下の形で、電子メール(デジタル原稿(PDFファイル))で年会事務局に提出していただきます。

【5】参加費について

- | |
|--------------------------------------|
| ・ 会員事前申込締切日まで |
| 参加費 3,000 円 論文集 3,500 円 交流会費 5,000 円 |
| ・ 会員(当日)・非会員 |
| 参加費 4,000 円 論文集 3,500 円 交流会費 5,000 円 |
| ・ 後援関係の教職員 |
| 参加費 無料 論文集 3,500 円 交流会費 5,000 円 |

※参加費の振込用紙・参加申込書などは、次号ニューズレターに同封いたします。

● 論文集の郵送申し込みについて(年会に参加されない方)

年会に参加されない方で論文集を購入希望の場合は、次号ニューズレターに同封の振込用紙の該当欄にご記入の上、申し込みをしてください。年会終了後に論文集を送付します。

(論文集：4,000 円(本体、郵送費等を含む))

● 後援関係の皆様

新規の方の参加を歓迎します。後援いただいた教育委員会所属の教職員の参加は無料とします。(論文集の代金は必要です。)

● 宿泊

宿泊に関しては、各自で手配くださいますようお願いいたします。

【6】これからの予定

発表申込締切	2013年6月28日(金)	
発表決定通知	2013年7月31日(水)	
論文提出締切	2013年8月30日(金)	
参加申込締切	2013年10月11日(金)	※参加費支払締切

*****第6回(平成24年度)木田賞について〈報告〉*****

木田賞選考委員会

平成24年8月25日(土)に開催された本学会の総会後に、第6回(平成24年度)木田賞の授与式が行われました。受賞者及び受賞にかかる功績は次のとおりです。

受賞者：杉山博文氏(岐阜女子大学教授・同理事長)

功績：木田文庫の整理・保存と利用環境整備への貢献

「岐阜女子大学に、木田宏先生およびご家族のご厚意により寄贈された、氏所蔵の教科書または教科書制度、教育委員会制度等、戦後の教育に関わる多くの教育関係の書籍、資料類(平成16年：図書5,959冊、雑誌4,188冊 計10,147冊、平成24年：図書125冊(その他、ノート、ハガキ類といった史資料)の総計10,272冊の貴重な図書・資料類について、その目録化、図書館における配架整理、学生等への利用指導など、〈木田文庫〉の整理・保存および利用環境の整備を行った」ことに対して。

*****運営本部事務局より〈お願い〉*****

○年会費お支払いについて

2012年度までの会費のお支払いが、まだお済みでない方は、新年度会費と合わせて手続きをお願いいたします。(お支払いいただいた後、振込金受領書は大切に保管してください。)

本学会は会員の皆様からの会費によって運営されております。学会の正常な運営のためにも、趣旨ご理解の上、お早めに手続きをいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

○学生会員の方へ

2012年度より引き続き学生会員としてご登録の方は、必ず「学生証」のコピー又はPDFファイルを郵送もしくはE-mailにて運営本部事務局までご送付ください。

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル4F 岐阜女子大学 文化情報研究センター内
Tel:058-267-5233 Fax:058-267-5238 E-mail:nkjg@gijodai.ac.jp